

教育目標		心豊かにたくましく生きる子供の育成					
重点目標		1 一人一人に応じた環境を構成し、個性を生かす保育を実践する。 2 友達と共に伸びようとする仲間づくりを進める。 3 健やかな心と体づくりを進める。 4 家庭・地域社会との連携を図り、地域・開かれた幼稚園づくりを推進する。					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
確かな学力の向上	自ら学び自ら考える力の育成	・全職員で子供の姿について共通理解を図るとともに、子供自ら考え行動するための環境の構成の工夫を行い、保育を実践する。 ・子供が自分で考え決定して行動する姿に繋がる環境の構成について園内研究会を年2回行い、職員全体で学び合い教職員の保育実践力を向上させる。 ・短期指導計画の子供の姿のエピソード記録を基に協議を行い、共同研究園のテーマや研究の課題に基づいた環境の構成のあり方や個々の課題や関わり方について学び合う。	・施設1回の短期指導計画の話し合いで、自分で考え決定して行動するため環境の構成や子供の姿、課題について共通理解を図る。 ・子供が遊び込むために必要な環境を整えると共に、実際の子供の姿から環境を再構成する。 ・園内研究会を年3回実施したり(市内公開保育を含む)、共同研究園の園内研究会に参加したり、自分で考え決定して行動する子供の姿につながる環境の構成を協議する。 ・保護者アンケートの「子供は、幼稚園で自ら考え決定している」について「あてはまる」や「あてはまる」の回答が80%以上になる。	A	・施設1回の短期指導計画の話し合いの際、子供の様子や育ちについて共通理解を図った。また、意見交換から環境の再構成にも取り組んだ。引き続き、子供の姿の共有をしいくとともに、子供が自ら考え決定して行動するための環境を作っていく必要がある。 ・共同研究園での研究方法に基づき子供が自分で考え決定して行動するための環境の構成について協議することができた。 ・保護者アンケートでは「あてはまる」や「あてはまる」の回答が90%以上だった。	・子供の姿を共通理解し、より自分で考え決定して行動する子供が育つために必要な環境の構成について自分から意見交換を繰り返していき、環境づくりを進めていく。	共同研究による環境構成のあり方検証の成果が出ている。保護者の評価も大変よく、今後も取り組みを続けていきたい。
	直接体験を通して子どもが心を動かす保育の推進	・市統一の教育課程をもとに、一人一人が自分で考え、学びを深める事ができる保育を行う。 ・園内の自然を取り入れた保育を工夫する。	・年1回教育課程を振り返り、保育点検をする。 ・年2回ピクトグラム研修を実施し、生き物や自然に繋がる直接体験の機会を作る。また、研究発表を異年齢児に伝えたり遊びの環境を作る。 ・生き物や自然を身近に感じることができるよう、季節に応じた各クラスの保育室に掲示したり、子供が自由に使えるように園庭に準備したりして環境を構成していく。	・年1回教育課程を基に保育点検を行う。 ・5歳児のピクトグラム研修を年9回実施する。好きな遊びの中や異年齢児とのかわりの中で、ピクトグラムについて異年齢児に伝えたり知ってもらいたい。 ・保護者アンケートの子供は、保育室の自然環境、ピクトグラム研修、ことば文化(遊戯劇、どんぐりのみ、見聞活動)等を通して自然が好きになった。また「見聞活動」について「あてはまる」や「あてはまる」の回答が80%以上になる。	B	・年1回、教育課程の見直しを行うことができた。 ・年9回、5歳児はピクトグラム研修で生き物や自然に繋がる体験をすることができ、興味を持って自然にかかわることができた。研修を行った後、異年齢児の意見交換も実施している。また、ピクトグラムについて「あてはまる」や「あてはまる」の回答が100%だった。	・今年度は、教育課程を学期ごとに行い、日々の保育実践に努めていく。また、5歳児は、架け橋のカリキュラムを活用していく。 ・職員間で共通理解を図りながら、生き物や自然を身近に感じられるような環境を工夫していく。 ・異年齢児に伝えていたが、ピクトグラムについて広く知らせたり異年齢児が知ることができるよう環境を準備していく。
豊かな心・健やかな体の育成	子どもの健やかな体づくり	・日々の遊びの中で楽しく運動遊びに取り組み。 ・園と家庭が連携を図りながら、基本的な生活習慣の確立を目指す。	・楽しく体を動かすことができるよう、日々の遊びの中で運動遊びや律動等に取り組む。 ・「ほんだら」や「けんご」けんごけんご」などのリズム遊びを通して、基本的な生活習慣について意識し、園と家庭が連携しながら基本的な生活習慣の確立を目指す。	A	・保護者アンケートの子供は、幼稚園の園庭で体を動かして遊ぶことを楽しんでいる。また「ほんだら」や「けんごけんごけんご」の回答が90%以上になる。 ・保護者アンケートの子供は、自分の身体や健康について意識し、園と家庭が連携して取り組んでいる。また「ほんだら」や「けんごけんごけんご」の回答が90%以上になる。	・子供達と運動遊びを通して体力向上できるように次年度も継続して運動遊びに取り組んでいく。 ・保護者アンケートでは「あてはまる」や「あてはまる」の回答が90%以上だった。 ・子供の実態に即した健康や生活習慣に関する指導や園と家庭が連携して取り組んでいく。	園庭で十分に遊べているようで大変良い。自分の身体や健康について意識することは難しい。家庭への啓発・連携を今後も行っていきたい。
	特別支援教育の充実	・個別指導計画を作成し、実践、評価を進めていく。 ・組織的、計画的なインクルーシブ教育・保育の実践に努める。	・個別指導計画を必要とする幼児の情報交換を細やかにし、職員間で共通理解を図り連携して支援を行う。 ・担任者がインクルーシブ教育・保育に関する研修会に積極的に参加し、職員と共有する。 ・あそびの療育施設、就学先小学校等との連携を図る。	・年2回、個別指導計画の作成を行い子供の育ちを保護者と共有する。 ・職員間で子供の姿や課題について共通理解を図るため、情報交換を実施する。 ・研修会参加後、自らの保育に活かせるよう、研修報告をする。 ・入園前の引継ぎや保育所等訪問事業、小学校支援員の見学や引継ぎ、年中プロブレムコーディネーター担当者等児童・幼児の情報交換をする。	A	・担当で協議をもとに、個々の育ちや課題、必要な支援について共通理解を図りながらインクルーシブ教育を行うことができた。 ・2回にわたる研修会や情報交換の機会をもち、個別指導計画を開示し、個人相談を実施した。また、園の状況に応じてその都度保護者と話し合う場を設定し共通理解を図りながら保育に取り組むことができた。	・多様な子供一人一人に対応するための巡回相談や関係機関との連携を密にし、幼稚園・家庭・関係機関でこどもの実態と支援のあり方を共有していき、連携を密に図っていく。
教師の教育力の向上	人権教育の推進・充実	・自尊感情や他を思いやる気持ちを育む保育を実践する。 ・保護者と連携して、自尊感情の育成に取り組む。	・日々の保育の中で、自尊感情が高まるように一人一人を十分に認め、自分も他者も大切にできるように保育を実践する。 ・「ほんだら」や「けんごけんごけんご」の回答が90%以上になる。 ・「あそびの療育施設」や「けんごけんごけんご」の回答が90%以上になる。 ・「あそびの療育施設」や「けんごけんごけんご」の回答が90%以上になる。	A	・保護者アンケートでは「あてはまる」や「あてはまる」の回答が90%以上だった。 ・「あそびの療育施設」や「けんごけんごけんご」の回答が90%以上だった。 ・「あそびの療育施設」や「けんごけんごけんご」の回答が90%以上だった。	・引き続き、自分の思いを伝えることや友達や周りの人への思いやりの気持ちを育む保育に努める。 ・子供一人一人に寄り添うことができるように、保護者や職員の連携をより密にしていきたい。	自ら挑戦しようしたり、粘り強く取り組んだりできる環境と、それらを認める声掛けができる教員や保護者が大切だと考える。今後も温かな環境を作っていく。
	教員の研修の充実・人材の育成	・目の高い教育活動が行えるように個々の教師の力を育成する。	・幼児理解を基盤とした保育や環境の構成について話し合い、保育を進めていく。 ・他の研究会に参加し、主体的に遊び込む力(自分で考え決定して行動する)を育む保育に取り組む。 ・研修会に参加し、自らの課題や課題に向けて研修会に参加するなどして、専門知識を深めながら資質向上に努める。	・研究テーマに沿った日々の保育や環境の構成について協議を深め、共通理解のもとチームで保育を進める。 ・共同研究園との研修会を実施し「自分で考え決定して行動するための環境の構成」についての研修を行う。 ・個々の職員の課題や目標に応じて幼児教育センター主催の研修会や幼児教育の専門性を高めることのできる研修に参加し、得た学びを共有する機会をもつ。	B	・共同研究園の園庭と共に「自分で考え決定して行動するための環境の構成」の検証を行うことができた。 ・担任同士が保育を見合う園独自の研修会を密に実施し、話し合い、互いに学び合う機会をもち、研修会に参加し、自らの課題や課題に向けて研修会に参加するなどして、専門知識を深めながら資質向上に努める。	・今後も目の高い保育を含む機会を設定し、日常的に研修を共有できるようにしていきたい。 ・園独自の研修をすることで園で系統立てた取り組みができると考える。
開かれた・信頼される園づくり	安全管理	・様々な感染症対策に努め、安心安全な幼稚園生活が過ごせるよう努める。 ・危機管理体制の整備を進める。 ・安全指導を進めていく。	・感染症等の状況把握を行い、関係機関と連携を取りながら、感染症対策を行う。 ・園内・園外、遊具等に危険箇所がないか点検し、危険箇所を撤去等を行う。 ・避難訓練や防災訓練、交通安全マナー等の指導を定期的に行う。	A	・保護者アンケートでは「あてはまる」や「あてはまる」の回答が90%以上だった。 ・園庭で遊ぶための感染症などの状況把握に努め、教職員が共有し、必要に応じて関係機関と連携して対応することができた。 ・月1回の安全点検や日々の中でその都度安全に過ごせるように職員間で情報共有を行うことができた。 ・避難訓練、防災訓練を行うことで見えた課題を考える機会をもつことができた。	・引き続き、地域の感染症などの状況把握に努め、適切な感染症対策を行う。 ・安全に生活できるよう今後も関係機関と連携して対応していく。 ・避難訓練、防災訓練を行うことで見えた課題をもつて行動できるようにする。	年長児に対しては、特に交通ルールについての指導を行っていたと小学校の登下校がスムーズになると思う。
	学校園情報の積極的な発信	・保護者への情報発信を工夫し、園教育への理解を図る。	・ホームページやicucu等を通して、タイムリーに情報を発信する。 ・icucuのクラス動画を2週に1回程度発行したり、クラスだよりを毎週日曜日の前日に発行したりする。 ・icucuによる動画配信を月2回以上アップすることで、園教育の可視化を図る。	・月1回保育参観等、保育の公開を行う。 ・ホームページやicucuのクラス動画、動画配信を月3回以上更新する。 ・保護者アンケートの「保護者は、幼稚園の情報や活動の様子を園だよりやクラスだより、動画配信等を通して知ることができている」について「あてはまる」や「あてはまる」の回答が80%以上になる。	A	・ホームページ及びicucuによる動画配信を月3回以上アップすることができた。また、クラス動画では、子供の様子を写真を中心に掲載し、保護者が「見たい」と思えるようなレイアウトを工夫することができた。 ・動画配信では、タイムリーに子供の様子を伝えることができた。 ・保護者アンケートでは「あてはまる」や「あてはまる」の回答が95%以上だった。	・今後もクラス通信やicucuなどを活用し、タイムリーに子供の様子を伝え、保護者との信頼関係の構築に努め、理解・協力が得られるように取り組んでいく。
子育て支援	預かり保育の充実を図り、子育て支援に努める。	・預かり保育の利用者増加に伴い、より安全管理に努め、子供が安心安全に過ごせるよう環境や活動内容を工夫する。 ・子供の様子や健康状態等職員間の連携を図るとともに、保護者との連携も密にし、子育て支援の充実を図る。 ・子育て支援センター主催の「みんなのひろば」を実施し、支援員と連携を図り未就園児と保護者の様子等について職員間で情報共有する。	・園生活での子供の様子や、保護者から得た情報、子供が安心して過ごす環境や活動内容を工夫する。 ・子育て支援センター主催の「みんなのひろば」を年9回実施する。 ・園生活での子供の様子や、保護者から得た情報、子供が安心して過ごす環境や活動内容を工夫する。 ・子育て支援センター主催の「みんなのひろば」を年9回実施する。	A	・預かり保育の退園時に子育てについて相談されたことがあり、担任と連携を図って対応することができた。 ・子育て支援センター主催の「みんなのひろば」は年9回実施することができた。未就園児との自然な交流を図ることができ、保護者が安心して子供を預ける場も増えている。また、保護者が入園前に幼稚園の様子を知ったり、園の教育について、話を聞いたりできる機会となっている。	・預かり保育利用の子供の安全確保、保護者対応を共通理解し、引き続き職員間の協力体制を固めていく。 ・日頃から保護者と子供の姿を共有することで、小さな変化に気づけるようになる。 ・園生活での自然な交流を図ることができ、保護者が安心して子供を預ける場も増えている。また、保護者が入園前に幼稚園の様子を知ったり、園の教育について、話を聞いたりできる機会となっている。	欠席日数によって家庭訪問をする等、丁寧に対応される。
	業務改善	・職務分掌を責任をもって遂行し、業務改善への意識をもつ。	・月ごとの業務日程で、常に見直しをもち職員会議や職員作業等を行う。 ・担当者が予め意見を集め、パノシンの画面共有で会議を進めたりすることで、会議時間の短縮や業務の削減を行う。 ・個々に見直しをして後方業務を考慮し、計画的に業務を行う超過勤務削減についての意識を高める。	・環境整備や安全点検を日頃から全職員で行い、効率よく業務を遂行できるようにする。 ・事前に会議内容や時間を共通理解することによって会議時間の短縮を行う。 ・月1回の会議と会議と同時進行でおおよそ月1回のマイ定時勤務日を守る。	B	・普段から子供の様子や気持ちを伝え合う風土が育つているので、あえて職員会議の時間を設けなくても日々の子供の共通理解ができている。 ・会議で協議が必要な内容については事前に協議を行い、開かれた時間内で終える事ができるように職員一人一人が意識するようになっている。 ・休みたい、休める体制、超過勤務の削減については努力を怠っていない。行事前等、時期によってばらつきがある。	・今年度も実践し、成果があったものは、次年度も引き続き実行する。 ・業務改善の観点から、他の職員に引き継ぐことがないが精選する。

学校関係者評価総括

子供たちもいきいき園生活を送っている。引き続き、丁寧に取り組んでいきたい。

次年度に向けた重点的な改善点

業務改善を進めて、先生方が笑顔でいきいきと仕事のしがいがある園づくりをめざしていく。